源氏物語と日本文化
－現代に蘇る源氏物語の世界－

展示：2/4（火）～2/15（土）
公演：2/8（土）16：00～

源氏物語は世界最古の女流文学・長編小説のひとつであり、日本文化の源流としても重要な作品である。

本企画は、源氏物語の世界をイメージとしてわかるように紹介し、言語にとらわれない形で源氏物語の世界を理解してもらうことを目的とする。展示に加え、伝統を受け継ぐ者による公演を合わせることで、源氏物語を「現代も生き続ける日本文化」として描くことで、みなさんに興味や関心をもってもらいたい。

（展示）

源氏物語と関連した日本文化を象徴する装束や香道具などを展示。

源氏物語に登場する姫君の装束を日本の四季になぞらえて見られたり、香道具によって香りを感じたりもできる。

（2月8日　公演プログラム）

16：00～16：05　ご挨拶

16：05～17：15　香道の実演　　香道御家流宗家　三條西堯水

17：15～18：25　十二単の実演　衣紋道高倉流宗家　高倉永佳

18：25～18：40　質疑応答など

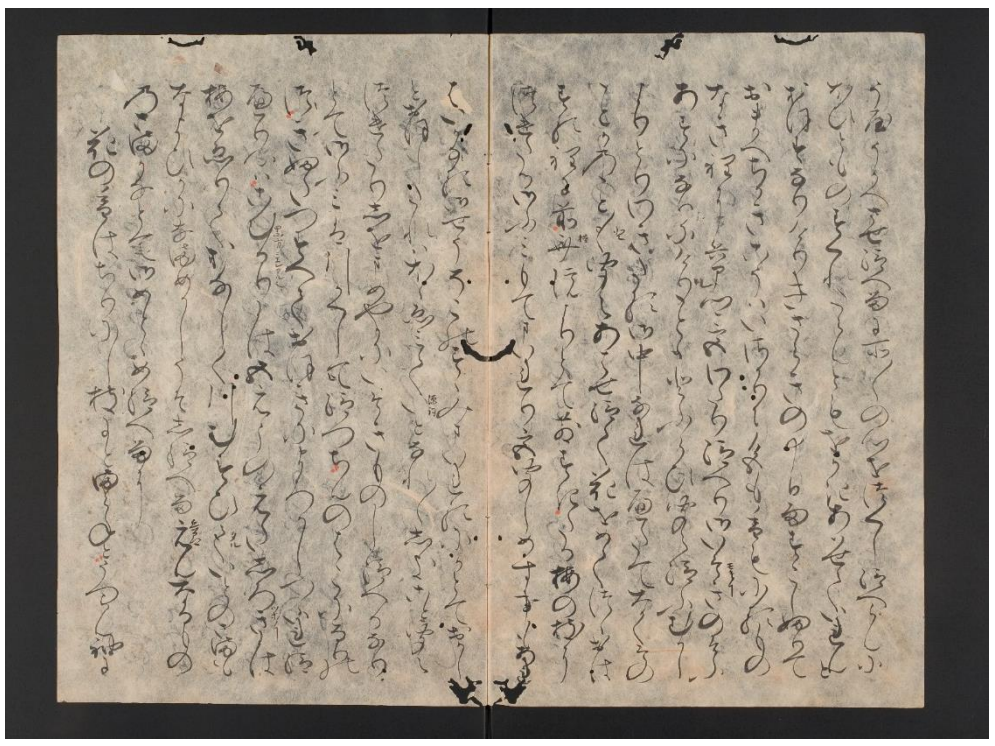
源氏物語図小屏風（実践女子大学香雪記念資料館　蔵）
源氏物語の浮舟の場面を描いた屏風。複製品を展示中。

実践女子大学と源氏物語

実践女子大学は、創立以来120年以上の長きにわたり、源氏物語研究に取り組んできた。

文学研究においては、本学の創立者である下田歌子がその講義で評価を得たほか、本学に所属した多くの研究者が研究成果を発表し、学術界をリードしてきた。源氏物語に関する貴重資料を豊富に所蔵しており、源氏物語関連の古写本等の所蔵数は世界でもトップクラスである。

これらの研究蓄積と豊富な資料を基盤として、文学的な側面だけでなく、源氏物語が日本文化に与えた多様な影響も分析している。これら文化的・社会的側面に関する源氏物語研究の成果を蓄積するとともに「宮廷の華 源氏物語」(2014年)といったイベントを通じ、社会に対して積極的に発信している。



明融本『源氏物語』梅枝巻（うめがえのまき）

室町時代末期に冷泉為和の息子である冷泉明融らによって書写されたとされる源氏物語の写本。冷泉明融は藤原定家の子孫。

「宮廷の華　源氏物語」

2014年実施のイベント。十二単装束の着付けや香道の香席の実演、1/4スケールの十二単の展示や香道具の展示などを行った。

現在、実践女子大学における源氏物語研究は以下3つのプロジェクトを柱として全学的に推進している。

①紙の科学的観察による源氏物語研究

②平安期装束の復元

③源氏物語と日本文化の発信

今回の展示はこれら3つのプロジェクトの内容を紹介するものである。

紙の科学的観察による源氏物語研究

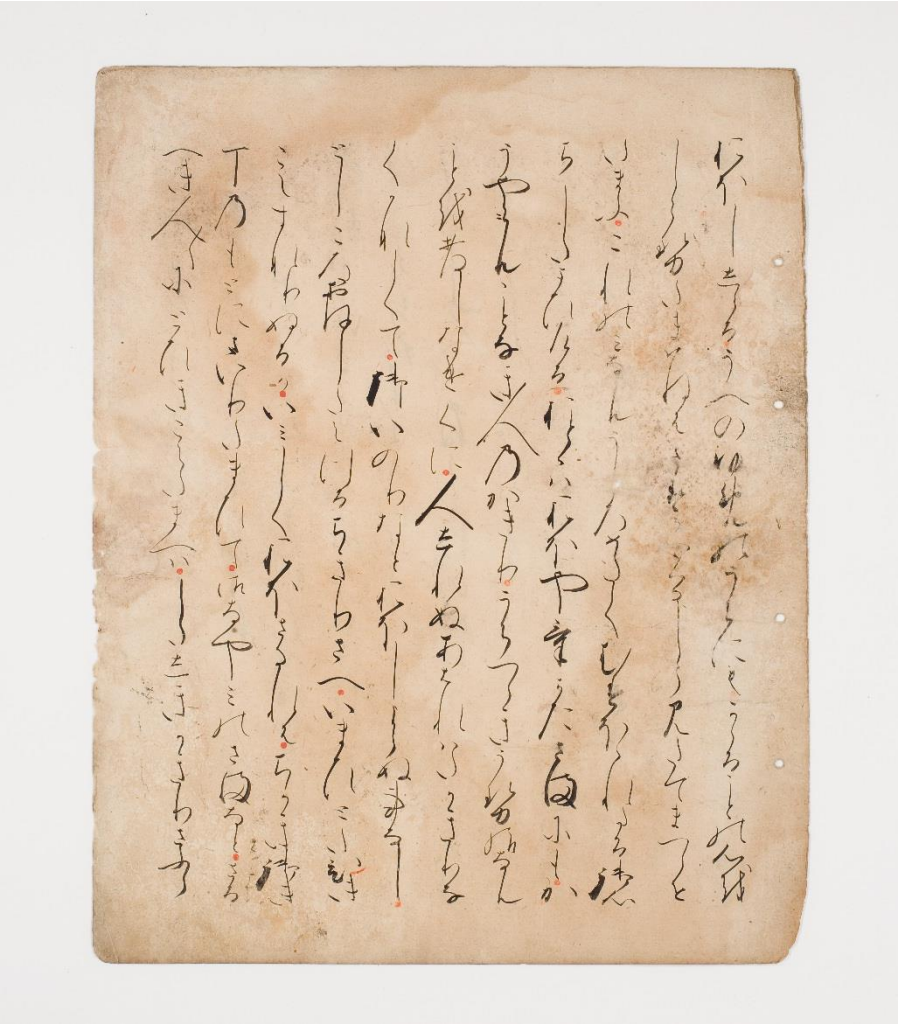
源氏物語は今から1000年以上昔に記された文学作品です。原作者の紫式部が執筆した原本は残されていないため、現在は様々な写本や、その断片をもとにして研究が行われています。

これらの写本や断片を使う際には、どのような時代に、どのような作者が、どのような目的で、その写本を作成し、後世に伝えようとしたのかを知る必要があります。

これまでは、写本や断片に記載された文章や筆跡などから、鑑定者が時代や作者を類推する手法が採られていました。この方法は鑑定者の経験によるところが大きく、科学的な根拠が不十分な場合がありました。

今回、実践女子大学では、写本に使われた紙に着目し、超高精細マイクロスコープや分光蛍光光度計などの分析機器を用いて科学的観察を行います。これにより、紙の繊維やそれらに含まれる成分などを根拠として、写本の作成年代や作者、社会的背景を検証します。

こうした最新の科学的観察によって得られた知見と、文学的な解釈を組み合わせることにより、源氏物語の新しい研究を展開していきます。



伝藤原為家筆 河内本源氏物語（薄雲）零葉

マイクロスコープで見た紙の繊維

平安期装束の復元

いわゆる「十二単」とよばれる平安時代の女性装束。これまで多くの十二単が国内外で再現されてきましたが、それらの装束は平安時代の製法ではない。なぜなら、平安時代当時の装束の製法は現代には伝わっておらず、江戸期以降に書かれた文献等から読み解くことでしかできなかったからである。

今回の実践女子大学による装束の復元では、平安時代により近い方法での復元を目指します。具体的には、当時使用されていたとされる細い糸を使用したり、生地の染色には天然の染料を使用する草木染を用いたり、当時の生地の織り方や文様を研究し、布が重なりあった重ね色目もよりはっきり見えるものとなるようにする。これらを通じて、これまでに類を見ない、平安期のものに限りなく近い装束の復元を目指す。

平安期から連なる日本文化及び「源氏物語」に登場する装束の世界を、日本文化の伝統技術を現代に引き継ぐ京都の染色家である吉岡更紗（よしおかさらさ）氏（染司よしおか）や、繊維・織物・装束の専門家である井筒グループ、衣紋道高倉流宗家である高倉永佳（たかくら　ながよし）氏の指導・監修の下、復元していく。

十二単

十二単（後姿）

源氏物語と日本文化の発信

源氏物語は、最古の女流文学・長編小説のひとつとして、また心理描写の優れた小説として、世界的に高い評価を受けています。現在は多数の外国語訳が発表され、海外でも源氏物語研究が盛んに行われつつあります。例えばフランスでも、René SieffertやEstelle Leggeri-Bauerといった研究者によるフランス語訳が出版されたり、源氏物語を題材とした日仏の比較文化研究が行われていたりします。

実践女子大学は、源氏物語研究の拠点としての使命のもと、源氏物語と、源氏物語を源流とする日本文化の魅力をわかりやすく発信するため、様々な取り組みを行っています。

例えば、源氏物語の世界に触れて、その魅力を味わうためには、今から1000年以上昔の日本における宮中の文化を理解する必要があります。しかし、これは現在の日本人にとっても難しいことです。そこで、私たちはこれまでの研究によって得られた蓄積を活用し、例えば当時の宮中で着られていた装束や、香りの文化、音楽などを再現して実際に体験できるイベントを開催するといった取り組みを行っています。また、日本文化の源流としての源氏物語を体感するため、能楽のような伝統芸能や、源氏絵のような美術品の発表・展示も積極的に行っています。

今回のパリ日本文化会館における展示と公演も、こうした取り組みの一部として行っています。